

全校のみなさん、おはようございます。

新年度になって一カ月、若葉が美しい季節となりました。皆さんは学校生活に慣れたでしょうか。物事に順応することは大切です。とくに一年生は、早く慣れることによって落ち着いた生活が送れるようになります。一方慣れてくることによって最初の気持ちを忘れたり、やるべきことを疎かにしてしまったりすることがあります。二・三年生の皆さんは今一度「初心」を忘れずに生活できるといいですね。

さて、先週は釈尊降誕会でした。全校から持ち寄った色とりどりの花々をステージに飾り、釈尊の誕生をお祝いしました。また、クラス代表の方々や笠原先生の感話を通して考えさせられることもありましたね。感話というのは、スピーチと違い、話を聞いて、自分はどうか、自分だったらどう受け止め、どう対処するだろうかなど、自身に目を向けることです。

ところで、皆さんの教室に飾ってある花は美しく咲き誇り、私たちを楽しませてくれていきますね。花が咲くためには、水や土や光などの養分が必要です。花と同じように私たちも自分らしく咲くためには養分が必要です。

では、私たちにとって養分とは何か、それは「教え」です。「教え」と聞くと何か堅苦しく感じますが、難しいものではありません。誰かの生き様や言葉、その人の笑顔や悲しみ、また自分に与えられる様々な環境すべてに「教え」があります。

仏教も、先人たちが釈尊の生き様や言葉を、「教え」として今に伝えていきます。そういう意味では、感話発表者の人たちが自分の人生や思いの一部を話してくれたことも、私たちにとっての養分、すなわち「教え」になります。しかし、いくら養分があっても、それを吸い上げる根がないと、咲くことも、あるいは咲いたとしても枯れてしまいます。では私たち人間にとって養分が「教え」ならば、根は何をさしているか。それは「教え」を謙虚に「聞く」ということです。

私たちが自分らしく咲くために、「聞く」という根を持たねばならない。教室に飾られている花が、そう教えているように思います。